

1 開催の日時及び場所

(1) 日時 令和2年2月4日(火) 午後2時から午後4時10分

(2) 場所 カメリアホール 多目的ホール

2 委員の現在数 22人

3 出席者

(1) 委員 16人(うち代理出席2人)

新沼邦夫 尾上悟 紀室裕哉(代理:小松格) 鈴木昭司 志田繕隆 柴田博之
山蔭康明 臂徹 渡辺徹 佐藤敬生 石橋厚子(代理:山崎高範) 花崎洋子
江刺由紀子 今野顕彦 長澤敏之 藤原昇平

(2) 市職員 11人

財政課 佐々木卓也 国保年金課 佐々木直央 子ども課 岡崎充博
商工課 平野辰雄 企業立地港湾課 山本淳一 佐藤直司 観光推進室 金野道程
建設課 新沼巖 住宅公園課 三浦寛基 生涯学習課 新沼裕一
学校統合推進室 武田貴子

(3) 事務局 4人

企画政策部 I L C推進室 室長 新沼徹 次長 伊藤喜久雄 主幹 遠藤高雄
係長 鈴木亨

4 議事の経過

午後2時、I L C推進室遠藤主幹の進行で定刻どおり開会した。

はじめに新沼会長から、「12月18日に開催された第2回策定委員会では、大変貴重なご意見をいただいた。前回の委員会では、『I L Cから想定される効果』、『当市あるいは気仙地域で実現したい姿』などについてワークショップ形式で討議したところである。本日は、前回に引き続きワークショップ形式により討議いただくこととしているので、多くの意見・アイデア等を発言いただければと思う。また、本日は前回に続き大船渡市役所の分野に関わりのある部署から職員の方にも同席いただいているので、討議の中で、確認したいこと、質問等あればお聞きいただければと思う。先日、日本学術会議によるマスタープランが公表されたところであるが、大型研究計画には採択されたが、残念ながら優先度の高い重点大型研究計画には採択されなかった。悲観的な内容の報道もあったが、翌日の文部科学大臣及び内閣府特命担当大臣の会見では、『日本学術会議マスタープランの重点大型研究計画には採択されなかったが、I L Cは国際プロジェクトであるので、そのことのみで決定するわけではない。東日本大震災からの復興を考えた場合に優先して進めるべきと思っている。』等の発言があったと報道されている。このことから、I L Cの実現には、地元の熱意というものが、今後非常に重要になってくるものと思っている。I L Cの実現に際してどのような準備が必要なのか対応を考えていかなければならないことから、本プランの策定は、非常に重要な作業であると考えている。日頃の役職や立場を超えて、忌憚のないご意見をいただきたい。」とあいさつがあった。

続いてI L C推進室新沼室長から、日本学術会議マスタープランについての補足とI L C誘致・実現に向けた今後のスケジュールについて説明があった。

「1月30日に日本学術会議から3年に1度策定されるマスタープランが公表されたところである。

大型研究計画に選定され、重点大型研究計画には選定されなかったが、いずれ大切なことではあるが、我々の認識としては通過点の1つとと思っている。昨年3月の国際会議の場で日本政府がはじめてILCに係る公式見解を発表し、この学術的なプロセスを経ることが1つの条件のようになっていたことから、その条件の1つを終えたものと認識している。再度計画に登載されたということで、学術的な意義は認められたものと認識している。マスタープランは、大型研究計画が161件、重点大型研究計画が31件であるが、重点大型研究計画選考のためのヒアリングの対象となった計画が59件あり、その中にILC計画が含まれている。このヒアリング対象の59件に残ったことで、次のプロセスに進む資格を得ている状況である。次のプロセスとしては、文部科学省学術研究の大型プロジェクトの推進に関する基本構想(ロードマップ)策定があり、このロードマップに登載されるための審査に応募する資格を得たということである。以上のように、着実にステップは踏んでいるという認識である。また、より重要なのが、2020年5月の欧州素粒子物理戦略策定である。この戦略への登載の有無が、我々としては非常に重要と考えている。ILC計画は国際プロジェクトであり、鍵となるのがアメリカ、ヨーロッパである。アメリカに関しては話し合いが進んでいる。ポイントはヨーロッパであり、フランス及びドイツとの協議組織は設置されており、それが動きを加速する予定となっている。そこでの議論と欧州素粒子物理戦略への登載の有無が非常に大きいこととと思っている。国際的な動きとしては、2月20日に国際将来加速器委員会(ICFA)の会合がアメリカで開催される。この会合の場で日本政府が何らかのメッセージを発するかもしれないとの憶測も流れているところである。このような内外の動きを経て、政府において最終判断をするものと見込んでいる。日本学術会議マスタープランから文部科学省のロードマップに至る一連のプロセスは文部科学省の枠内での話と捉えていただければと思う。これが国の省庁横断的な取組となると、文部科学省の枠を超え、一定のプロセスは経るかもしれないが、それに伴わない話となる可能性も十分考えられる。このことも踏まえ、今後は山場と捉え、国際的な協議の進展が1つのポイントとなると考えている。また、国内における機運の盛り上がりが重要と考える。この機運の盛り上がりで直結するのが、地元での受入体制を一定程度整えることであると認識している。そのような意味で、本委員会の取組は非常に大切なものであることから、引き続きご協力をお願いしたい。」

次にILC推進室鈴木係長から配布資料及びワークショップの進め方について説明があった。

その後、ワークショップに入った。

ワークショップは、50分の時間で、出席者が4グループに分かれ、「ILCと共生するまちづくりビジョン」に掲げる5つの将来像のうち、「港湾・物流・道路」分野を除く4つの分野（「産業」、「観光・交流」、「生活・居住・滞在」、「医療・教育・社会」）について、1グループ1分野で「ILCが大船渡市にもたらすライフスタイルの変化」及び「ビジョンに掲げる将来像を実現するための具体の取組(実施計画)」について意見・アイデアを挙げる作業を行った。

各作業について、最初に資料で提示された事項について討議し、続いて提示された事項にない意見・アイデア等について付せんにて記入し整理した。(各委員からの意見・アイデア等については、別添資料参照。)

ワークショップ終了後、各グループが討議内容について発表を行い、委員会内で挙げられた意見等を共有した。

各グループからの発表後、出席委員全員に対し発言の時間を設け、各委員から感想等が述べられた。

○その他について

(I L C 推進室鈴木係長)

本日挙げられた意見等については、整理した上で I L C アクションプラン (案) に肉付けされることになる。

第 4 回の策定委員会について、3 月 6 日の開催を予定している。年度末の多忙な時期での開催となるが、出席方よろしくお願ひしたい。

各委員から発言はなく、第 3 回 I L C アクションプラン策定委員会を閉会した。

以上